

議員研修報告

兵庫県・静岡県

(平成24年10月2日～10月4日)

黒潮町議会
震災対策特別委員会

委員長 しもむら 下村 かつゆき 勝幸

● 視察研修



黒潮町議会では東北大震災発生後の2ヶ月後に、震災対策特別委員会を組織し様々な防災施策について協議検討してきた。そんななか、今回の議員県外視察では、昭和51年から東海地震対策に国を挙げて、積極的に取り組んできた防災先進県である静岡県を中心に視察を行い、様々な先進事例を視察することができた。

★兵庫県淡路市

野島断層保存館

【北淡震災記念館】

この野島断層保存館は、平成7年に発生した阪神・淡路

大震災の後建設されたものであるが、現在も年間22万人の人たちが訪れ、地震の揺れの凄さを目の当たりにしている。今は、襲ってくる津波の高さに目が行きがちであるが、今回予想される東南海・南海地震でも震度7の揺れが阪神・淡路大震災とは比べ物にならないほど長く揺れることが想定されている。こうした点からも、もう一度揺れに対する備えについて、考えを新たにしている良い機会になった。



北淡震災記念館にて説明を受ける

★静岡県焼津市

【消防防災センター】

焼津市は津波想定高が平均6m、最大でも8mが想定さ

れているが、黒潮町でも問題となつている避難を放棄する方がこの町にもいるそうである。津波到達時間とその時の津波想定高の関係を正しく理解していない人も多く、今後はこれらをきちんと伝える努力が必要であると感じた。



焼津市災害対策本部

★静岡県吉田町

【吉田町役場】

首長である町長が積極的に国に対して働きかけを行って、国にすることが印象に残った。特に、国の専門家を町職員として迎え、防災対策の検討から国を巻き込んでいく。これにより、国のモデルケースとなるような提案を、積極的に行える体制

を構築していた。

津波想定高が我々の町ほど高くないために、国道の上を最適な津波避難場所と捉え、歩道橋のような仕組みでそこを避難場所として活用できるように国に積極的に働きかけている。今後は黒潮町においても「黒潮町モデル」といわれるような防災アイデアを出して行く必要性を大変強く感じた視察であった。

津波避難タワー完成予想図



吉田町庁舎にて取り組みを聞く